

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハッジバッジ		
○保護者評価実施期間	R7年 6月 1日		～ R7年 6月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数) 11名
○従業者評価実施期間	R7年 6月 1日		～ R7年 6月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 2月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	主として活動するスペースが広いので、机・椅子の配置などを工夫することで運動遊びや雑巾がけなどの動的活動も室内で取り組めます。	動きがある活動の際には、机や棚の角が危なくないようにマットなどで囲い安全確保に努めています。	子どもたちの年齢や体の成長に合わせて活動内容を工夫していきます。
2	定員10名の中で利用児童の年齢の幅が広い為、年上の子が年下の子に対し、学習や活動の場面でサポートしてあげられるなど、子ども同士で支えあう場面が多くみられます。	活動の設定をする時点で、異年齢の子ども同士でペアを組む等、関わりが増えるように工夫しています。	将来地域に出ても人との関わり方が活かせるようソーシャルスキルカード等を使用し、相手の気持ちへのより深い理解へと導いていきたいです。
3	事業所の周りに駅や公園などがあり、歩いて町探検に行ったり、体を動かしたりすることが多くできる環境です。	外出する際には、交通ルールや、災害時の避難場所等、確認し体験できるようにしています。	長期休みの際には図書館など少し遠い場所にも歩いていくなど更に環境を生かした活動の工夫をしていきたいです。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子どもの特性に合わせた関わり方・配慮の強化が更に行けると良いです。	特性の幅が広がっている為、そこに向けて職員も更に学んでいくことと配慮点の分析に努めていく必要を感じます。	引き続き職員間の研修や勉強会を行い、どの職員も一人一人のお子さまに合わせた支援がしていけるようスキルアップに努めていきたいです。
2	子どもたちの年齢が上がってきている為、個々のニーズに合わせた活動の工夫が必要だと思います。	集団での活動と個々で行う活動のバランスを調節しながら、お子さま一人一人のニーズに合わせた支援が更に行えるようにしていきたいです。	年齢や学年、進路など子どもたちが置かれている背景も見ながら、必要な支援が活動の中に取り入れていけるようにしていきます。
3			